

六甲山の雑木林で“まちっ子の森”づくり

堂馬英二・岡井敏博（六甲山を活用する会）

六甲山の雑木林との出会いを広げる

六甲山上では稀な、伸び伸びと自然体験できるフィールドをつくり、「六甲山子どもパークレンジャー」という、四季の環境学習プログラムを6年間続けている。対象地域にあるものだけを使った「六甲山らしい」体験学習を試行錯誤で進めてきた。植物や昆虫の観察調査という理学的な学習にとらわれず、地域環境や社会生活とのつながりも理解できることを目指している。二つ池周辺地域の生態研究はもとより、植生回復を目指すアセビ伐採の有効性も考えるような「自由研究」を実現したいと願っている。

当会が手入れをしているフィールドの持ち味は、六甲山らしい（＝落葉樹主体の）雑木林の再生を目指していることにあり、自然に恵まれない六甲山麓の小学児童が共有する“まちっ子の森”にしたい。六甲山に上って雑木林に親しむ機会の提供に注力することにした。雑木林に出会った感動をもとに、森を楽しむ、森を知る、そして森に関わるという体験を重ねることを支援し、将来には何人かが森づくりの担い手に育ってくれるのを息長く夢見て行く。



雑木林で目を輝かせて自由研究

アセビ伐採調査から「手入れの森」に発展する

最近の3年間は、二つ池東側の尾根筋で「アセビ伐採による自然植生の回復」を目指す実験調査を行っている。平成21年に、密生したアセビを伐採して落葉・広葉樹の成長を促進する目的で、環境省や神戸市から「木竹伐採の許可」を得た。第1期5×5mの6区画（西側に非処理の対象区6区画も設定）で84本を皆伐して大半を炭焼きし、伐採後の環境変化を定期的に観察している。平成22年度は北側に第2期10×10mの4区画を設定し、アセビ140本を皆伐し炭焼きした。アセビ以外の残置樹木の毎木調査を行い、環境変化も観察している。平成23年度は第1期・第2期の調査区での追跡調査を行い、アセビ伐採が多様な植生の回復に好影響を与えることを確認して、調査記録を関係者に報告している。

また、アセビ伐採調査の範囲を拡げて第3期のアセビ伐採調査の準備作業に着手した。当面は一帯に繁茂するミヤコザサを刈り取って毎木調査を行い、調査区画設定と伐採樹木数を決定する。

「手入れの森」を見学できる自然散策路に整備する

国立公園六甲山上の記念碑台から近畿自然歩道を西に10分足らず、二つの池を取り囲む雑木林一帯1.2haを借用して「二つ池環境学習林」として保全整備し、さらに“まちっ子の森”として活用していく。狭い地域だが、人工林・アセビ密生林・多様な樹種の混生林・二つの池と小さな沢があって変化に富んでおり、「小さな場所でも目を凝らしてみると、多様な世界が見えてくる」という体験もできる。

この地域に隣接する近畿自然歩道の非安全箇所を改修して、間伐材の木柵などで美観を整備すれば、六甲山ホテルを囲む一周約2キロメートルの散策コースができる。当会の“まちっ子の森”を希望者に公開すれば、六甲山らしい雑木林に立ち寄ることもできるユニークな自然散策路がかった六甲山銀座に誕生することになる。多くの市民が訪れて、自然環境の魅力や大切さを実感してもらえることを期待しながら、環境整備の活動への参画も募っていこうとしている。